中山町 歴史散策

第190話 俳諧③

安永（1772年～1781年）の頃から、伊勢参詣が盛んになると、松尾芭蕉の後継者であった美濃の国の各務支考（かがみしこう）に、参詣の途中で寄り道をして教えを乞うという風習が生まれました。詳細については、後段で示しますが、享保13年（1728年）に鶴岡の俳人林風草は、美濃の獅子庵を訪れ、「俳諧歌枕」を草しています。

この原本は酒田市の光丘文庫にありますが、その写本が、宝暦8年（1758年）当町の文新田の服部文右衛門の手に渡りました。

「俳諧歌枕」の序文に、蓮二坊こと各務支考の文章があり、風草が獅子庵を訪れてから30年を経て、中山の地に伝わったことになります。

もうひとつ、獅子門4代目の宗匠である田中五竹坊（たなかごちくぼう）の序文を持つ「俳諧発句」について見ると、安永3年（1774年）、前書と同様に、伊勢参詣に出かけた折、美濃の五竹坊を訪れ、その13年後の天明7年（1787年）当町金沢の鈴木源次郎（俳号　蝶宇）の手に渡った写本です。このように、当町から獅子庵を訪れた人の記録は見当たりませんが、訪問者の写本がいくつも流れ込んでいるのは、俳諧が盛んな地であったことを示すものと思われます。

こうした傾向は、多くの寺社に俳額を掲げる気運を生み、吟行会もしばしば行われました。幕末の混乱相次ぐ中で、不作凶作が加わる時勢でも、風雅を楽しむ気風が育っていたようです。

【用語の説明】
各務支考：美濃の国の俳人。別号は、野盤子、獅子庵、蓮二坊など。松尾芭蕉に入門。俳論書「葛の松原」を編集して、蕉門俳人として確固たる地位を築いた。芭蕉の死後は蕉門俳諧の指導者としての地位を固め、美濃派と称される。
獅子庵：支考の住居跡。
獅子門：支考の一派のこと。

※引用　中山町史　中巻
第10章第3節
文芸と美術工芸

私たち地域おこし協力隊です！ No.56

高橋　圭哉
出身地：宮城県岩沼市
趣　味：けん玉、アニメ鑑賞

皆さんこんにちは！地域おこし協力隊の高橋です！

あっという間にゴールデンウイークも過ぎてしまい、年々時間の経過が早いと感じている今日この頃です。

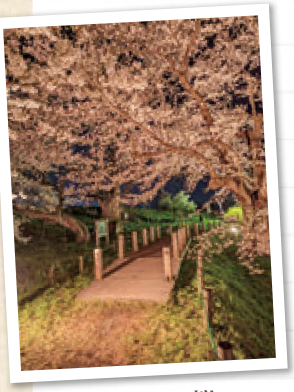
さて、広報活動の一環として行っていたＳＮＳを今年度は幅広くしていきます！これまではInstagramのみでしたが、新たにYouTube、TikTok、Facebook、Twitterを始めます！これらは、動画や写真を使って世界中の人に情報を発信するサービスで、スマホ１台あれば無料で見ることができます。

広報なかやまをご覧いただいている方はもちろん、町外の方にも中山町のことを少しでも知ってもらえたらという思いです。これらのＳＮＳを活用して、中山町のことや山形のこと、私自身のことなどを楽しく紹介できたらと考えています。

少しでも「ＳＮＳに興味がある！」「ＳＮＳにチャレンジしてみたい！」「ＳＮＳの登録方法がわからない。」などありましたら毎月行っている、スマホ教室やスマホよろず相談所にぜひ一度足をお運びください。

ＳＮＳをまとめましたので、こちらの二次元コードを読み取りご覧ください。

※閲覧するのに登録が必要なものもあります。



お達磨の桜
ライトアップ風景

●協力隊への問い合わせ先●　高橋 ☎662-2223（総務広報課）